

主な葡萄の病気・害虫など

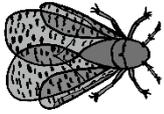
ウドンコ病
(仏：Oidium)

葉全体が白い粉に覆われたようになり、生育障害を引き起す。昔から使用されている銅をベースにした硫酸銅やボルドー液の散布が対処策として有効である。

ベト病
(仏：Mildiou)

白色カビにより、落葉、落花、落果。

フィロキセラ



和名はブドウネアブラムシ。学名「Dactylasphaera Vitifoliae」(ダクティラスファエラ・ヴィティフォリエ)アブラムシの一種。アメリカ大陸からフランスに侵入した害虫。対処策としてアメリカ産のぶどう樹(ヴィティス・ルペストリス等)を台木にして在来種を接木する。

ウイルス病

植物、動物、昆虫、バクテリアなどを介して葡萄に被害をもたらします。葡萄のウイルス病の種類は20種ほど。ブドウリーフロールと呼ばれる葉巻ウイルスは葡萄の葉を真紅にし、下向きに巻かせる。成熟が遅れ収量は半分ほどになる。ウイルスの対策は、ウイルスフリーの苗木の育成や、クローン選抜などが必要となる。

フィロキシセラの猛威

フィロキシセラの伝染

1863	フィロキシセラ、イギリスで発見される
1866	フランスのローヌ地方南部及びラングウッド地方で発見される
1869	フィロキシセラ、ボルドーに到着
1871	ポルトガル、トルコでも発見される
1872	オーストリアで発見
1874	スイスへ拡大
1875	イタリア発見。オーストラリアで発見
1878	スペインに到着。フィロキシセラに耐性のあるアメリカ産の台木に穂木する方法をフランスで開始。
1881	ドイツで発見
1885	アルジェリアで発見
1897	クオアチアで発見
1898	ギリシャへ拡大
1890	北カリフォルニアでフィロキシセラに浸されている葡萄の樹を発見
1990	オレゴン州とニュージーランドでも発見
2006	オーストラリア-ヴィクトリア州セラ・ヴァレーで単発的に発生

フィロキシセラは北アメリカが生息地でしたが、大西洋を汽船が航行するようになりヴィクトリア王朝の植物標本収集に紛れてヨーロッパに持ち込まれたと言われており、1863年にフランスの葡萄畑で発見されました。フィロキシセラは葡萄の根を食害し、葉や巻きひげまでも食べつくし、やがて樹を枯渇させます。アメリカの原生種葡萄が、フィロキシセラに抗性を持つことが判明するまでの約30年間の間でヨーロッパの多くのワイン産地に広がり約3/2の葡萄畑が壊滅状態となりました。アメリカの原生品種には耐性があり、こぶ状の癒合組織を形成して虫の開けた孔を塞ぐことが出来るため、北米系原種の *Vitis Riparia* (ヴィティス・リパリア) や *Vitis Rupestris* (ヴィティス・ルペストリア) などを台木として、ヨーロッパ品種 *Vitis Vinifera* (ヴィティス・ヴィニフェラ) の穂木として使用することで対処しています。

